

ベトナムにおける学生向け業界セミナー

1. 概要

近年のプロジェクトの大型化、複雑化、多様化とともに企業のグローバル化に伴う人材育成が重要となっており、今後ますます増加するインフラ輸出関連プロジェクトも含め、その実施に当たってはプロジェクトを遂行する人材育成も重要な課題となっている。

当協会では、産学人材交流センターを中心に、国内においては将来のエンジニアリング産業を担う大学生に、エンジニアリング産業の魅力と社会意義を伝えるプロモーションの一環としてキャリア支援セミナーとともに、就職を目指す学生のために業界セミナーを7年間継続実施している。

今回は、社会人向けにプロジェクトマネジメント（PM）セミナーの準備として訪問したベトナムにおいて、日本大使館、JICA 等からのご指導もあり、同国の大学においてエンジニアリング産業へ興味を抱く若い人材の母集団を拡大し、日本のエンジニアリング企業の魅力と社会貢献を紹介し、企業の現地子会社または本社要員としてグローバル人材育成の側面支援として企業紹介の業界セミナーを計画した。

実施場所は、現地より紹介をいただいた大学のあるベトナムのハノイ及びダナン市を候補とした。

計画に当たって賛助会員各社に上記趣旨に基づく参加ニーズ調査を実施したところ、10 社前後の参加希望のご連絡をいただき、具体化に向けて現地で事前調査を7月に実施した。

事前調査の結果、ベトナム国家大学ハノイ校およびダナン大学ともに大学挙げて実施に向けて会場の提供、参加学生へのプロモーション等の全面的協力をいただけることとなり、開催時期や共同主催、開催場所、ポスター制作等の準備の開始となった。

また、在ベトナム日本大使館のご協力とともに、JICA、JETRO 殿の後援も頂けることとなり、当協会産学人材交流センター企画調整部会の協力も得て実施に向け準備を行った。

2012 年 11 月 3 日および 5 日に実施したハノイ及びダナン市でのセミナーには、予定以上の学生が集まり基調講演および賛助会員企業 8 社（ダナンは 6 社）のプレゼンテーションを聞き入り、その後の各社との懇談会では熱心な質疑が続き、概ね好評であった。

学生からはもっと具体的な業務内容が知りたい等々の意見や、企業からはホーチミンでの開催の要望も出されている。

2. セミナーの実施

2.1 ハノイ

①セミナー

2012年 11月 3日(土)

於：ベトナム国家大学ハノイ校

時刻	時間	内容
9:00-9:30		受付
9:30-9:45	15分	ENAA 挨拶(前野専務理事)
9:45-10:00	15分	ベトナム側挨拶(ハノイ国家大学技術大学 副学長 NGUYEN THANH THUY 様)
10:00-10:50	50分	基調講演：エンジニアリング産業の紹介 香田圓様(千代田化工建設顧問/CAEL 会長) テーマ：「Engineering Why does it matter to you ?」
10:50-11:10	20分	COFFEE BREAK
11:10-12:30	80分	企業紹介(各社のプレゼンテーション) 10分/ 社
12:30-13:30	60分	LUNCH BREAK
13:30-15:30	120分	懇談会(飲み物付き) (この間個別面接も可能とする)

・共催と後援

共催：ベトナム国家大学ハノイ校

一般財団法人エンジニアリング協会

後援：JETRO

JICA

②レセプション

日時：11月2日(土)

17時-18時：ミニ講演会 (企業人事対象)

講師 VJCC チーフアドバイザー藤井孝男様

18時-20時：レセプション

日本大使館、関連団体(JETRO, VJCC 大学関係者、セミナー参加企業等 30名以上出席)

会場：ホテルニッコーハノイ

学生向けセミナーの実施に先立ち、ベトナムで長年人材関係の仕事をしておられるベトナム日本人材協力センター (VJCC) のチーフアドバイザー藤井孝男様から、参加企業を対象として、「ベトナム人材と人材育成を支援する V J C C の活動」と題する講演を行っていただき、ベトナム人を採用、育成する際のキーポイントおよびハノイ、ホーチミンにおける VJCC の活動状況の講演をいただいた。

③セミナーの構成

- ・開催日は土曜日のため、午前中より開始し、昼食をはさんで午後は企業との懇談会とした。
- ・午前は大学内の階段教室を使用し、共催の日越の代表の挨拶に引き続き、基調講演として千代田化工建設香田顧問によるエンジニアリング産業の魅力を日越逐次通訳でお話をいただいた。
- ・その後の各社のプレゼンテーションは、企業によってはベトナム人スタッフにより説明がおこなわれた。
- ・ランチブレイクをはさみ午後の懇談会は、移動して別建屋のロビーを利用した会場で各社にテーブルを用意し、2・3名のスタッフで学生との質疑に追われていた。数社は個別面談もできるように個室を用意した。
- ・終了時間後も各社のスタッフに質問している学生がみられた。

④ 参加企業

- ・賛助会員身業 8 社が参加
千代田化工建設、日揮、東洋エンジニアリング、JFE エンジニアリング、新日鉄住金エンジニアリング、山九、日立プラントテクノロジー、イオン

⑤ 参加学生

- ・約 250 名の大学生が参加
ベトナム国家大学ハノイ校(約 100 名)、ハノイ建築大学(約 100 名)、ハノイ工科大学、ハノイ交通大学、ハノイ貿易大学、電力大学、水利用大学、Le Quy Don 工科大学等の学生

⑥募集方法

- ・学生へのプロモーションは、ベトナム国家大学に対しては共催の大学先生に依頼し、その他の大学に対しては現地エージェントから、メール、パンフレット等により各大学に参加依頼を行った。

- ・日本の学生にとは異なり、大学の先生からの講義中のセミナー紹介による参加者が大半であり、大学の先生の指導力の強さを感じられた。
- ・なお、参加申し込みが会場の定員を超える勢いであったため途中で募集を締め切った。



ハノイセミナー風景(左：基調講演 右：懇談会)

2.2 ダナン

①セミナー

12012 年 11 月 5 日 (月)

於：ダナン大学内ダナン工科大学

- ・共催と後援

共催：ダナン大学

一般財団法人エンジニアリング協会

時刻	時間	内容
12 : 30-13 : 00		受付
13 : 00-13 : 15	15 分	ENAA 挨拶(前野専務理事)
13 : 15-13 : 30	15 分	ベトナム側挨拶(Dr. TRUONG HOAI CHINH VICE RECTOR, DANANG UNIVERSITY OF TECHNOLOGY)
13 : 30-14 : 20	50 分	基調講演：エンジニアリング産業の紹介 香田圓様（千代田化工建設顧問/CAEL 会長） テーマ：「Engineering Why does it matter to you ?」
14::20-15 : 30	70 分	企業紹介(各社のプレゼンテーション) 10 分/ 社)
15::30-15 : 50	20 分	COFFEE BREAK
15 : 50-17 : 30	100 分	懇談会(飲み物付き) (この間個別面接も可能とする)

後援：JERTO

JICA

②レセプション

日時：11月4日(日)

18時～20時

会場：バンブーグリーンホテル(ダナン)

大学関係者、セミナー参加企業等約30名が出席

③セミナーの構成

- ・開催日が授業のある平日のため大学との協議で午後からの開始とした。
- ・プログラム構成はハノイと同様であるが、会場は広い講堂を利用したため、基調講演、プレゼンテーションののち、同じ会場の後ろ半分を利用して懇談会を開催した。
- ・なお、授業終了時間が13時20分であったため開始予定時刻の13時には参加学生がいない状況が生じるハプニングもあったが、30数分遅れで申し込み以上の学生が参加して予定のプログラムを実施した。

④ 参加企業

- ・賛助会員企業6社が参加

千代田化工建設、東洋エンジニアリング、JFEエンジニアリング、新日鉄住金エンジニアリング、山九、日立プラントテクノロジー

⑤参加学生

大学生 約110名が参加（ほとんどがダナン大学の学生）

5年生が8割、男性が9割



ダナンセミナー風景(左：企業プレゼンテーション 右：懇談会)

3. アンケート結果

①参加学生のアンケート結果

- ・本セミナーを知ったのは、ハノイの場合は先生からの紹介が 7 割、講義時間中の話では 2 割となっている。
- ・ダナンは先生からの紹介が 5 割、講義中は 4 割。
- ・参加目的はエンジニア業界を就職先ととらえている、大いに興味を持つ業界、研修会内容が面白そう、が多数を占めている。
- ・満足度は、「期待以上であった」と「満足した」が 7 割程度。
- ・開催時間は「ちょうどいい」がほとんどであるが、開催日は「土日希望」が 3 割程度いる。
- ・日本のエンジニアリング企業に魅力を感じた学生は 8 割を超していた。
- ・その他自由記載では、ハノイの学生からは当初予定を大きく超える学生が来場し受付が混乱した改善希望や会場設備への改善要望企業の現状をもっと詳しく知りたい、企業のコンタクト先を知りたい、日本企業で働く際の注意事項や待遇等を知りたい要望がアンケートに出ていた。
- ・また、ダナンの学生からは、建設系の耐震技術等の技術内容を知りたい、および採用条件を聞きたい等の意見が目立った。

②参加企業のアンケート結果

- ・参加企業側もおおむね好評であった。
- ・ほとんどの企業が参加してよかったとの所感を持っており、次年度も同様のセミナーに参加の意思を持っている。
- ・ベトナムに支店等を持たない企業にとっても自社のPRとなった。
- ・懇談会での各社のテーブルを訪問した学生数は数十人から 100 人前後と幅があるが、採用に値する人材は各社数名から 10 名。
- ・前日のレセプションについては賛否がわかれた。特にダナンでは来賓の直前欠席があったためと思われる。
- ・当日運営については時間配分等はおおむね良かったようだが、ハノイは学生の数に対して会場が狭すぎた反省はある。
- ・基調講演では DVD を有効に使いエンジニアリング業界のスケールの大きさを十分に学生に伝えられたようである。
- ・個々の企業紹介の時間は、通訳付きの企業にとっては短すぎたが、ベトナム人スタッフが発表した企業は適当であった。
- ・懇談会は企業により人数のばらつきはあったが広さとも適切であった。学生用に椅子を用意との指摘もあった。
- ・コーヒーブレイクはハノイでは学生が多く狭すぎた。

- ・次年度以降の開催場所についてはベトナム国内であればホーチミンを希望する企業は多く、その他の東南アジア諸国の要望もある。
- ・開催時期については学生が就職を意識する４月以降との希望もあった。

4. 所感

①参加学生数は、ハノイ、ダナンとも満足できる数字であった。

ハノイ会場は前半の基調講演時には立ち席も出たが、午後の部の前に学生が帰ったことにより、懇談会の会場での大きな混乱はなかった。会場の広さや個別面談の時間から考えて、対応可能な適正参加者数であった。

②学生は熱心に講演を聞き、懇談会では各企業のテーブルの前で仕事内容や、研修などについての質疑もされて、多くの学生が説明を熱心に聞いていた。また戸別面談室を用意した企業では整理券を配布して対応した。

以上